

平成五年三月二十八日（日）

第一九九回 史跡めぐり資料

武蔵国分寺 江戸東京たてももの園

越谷市郷土研究会



○第一九九回 史跡めぐり ご案内
 武蔵国分寺 江戸東京たてもの園

とき 平成五年三月二八日(日)

集合 南越谷駅前 午前八時

乗車 八時 七分

コース 南越谷駅：(武蔵野線)：西国分寺駅：

(中央線)：武蔵小金井駅：(バス)：

小金井公園：江戸東京たてもの園：(バ

ス)：武蔵小金井駅：(中央線)：国分

寺駅：殿ヶ谷庭園：お鷹の道：真姿の

池：文化財保存館：万葉植物園：武蔵国

分寺跡：文化財資料展示室：国分尼寺跡

：旧鎌倉街道切り通し：西国分寺駅：(

武蔵野線)：南越谷駅

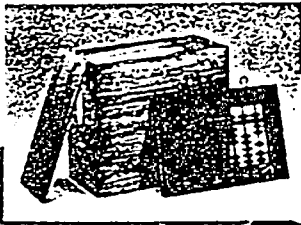
(天候等によりコース変更もあります)

参加費 三、五〇〇円

ご案内 幹事 宮川 進

●武居三省堂

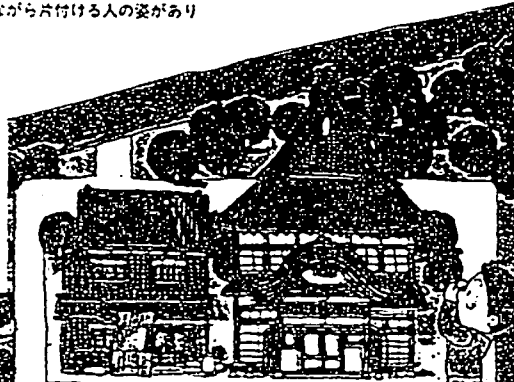
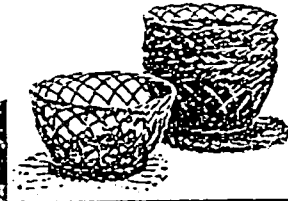
筆、墨、硯を中心に扱う文具店
で創業は明治時代に遡ります。筆
を納めた桐箱が壁の両側にずらり
と並んだ店内は、建築当初の面影
を残しています。
(旧所在地：千代田区神田須田町)



●武居三省堂(須田町)

●子宝湯

東京の特徴的な銭湯です。ロッカーのない時代、脱衣場では先の
白がった棒で替用に脱衣籠を引っ掛けながら片付ける人の姿があり
ました。
(旧所在地：足立区千住)



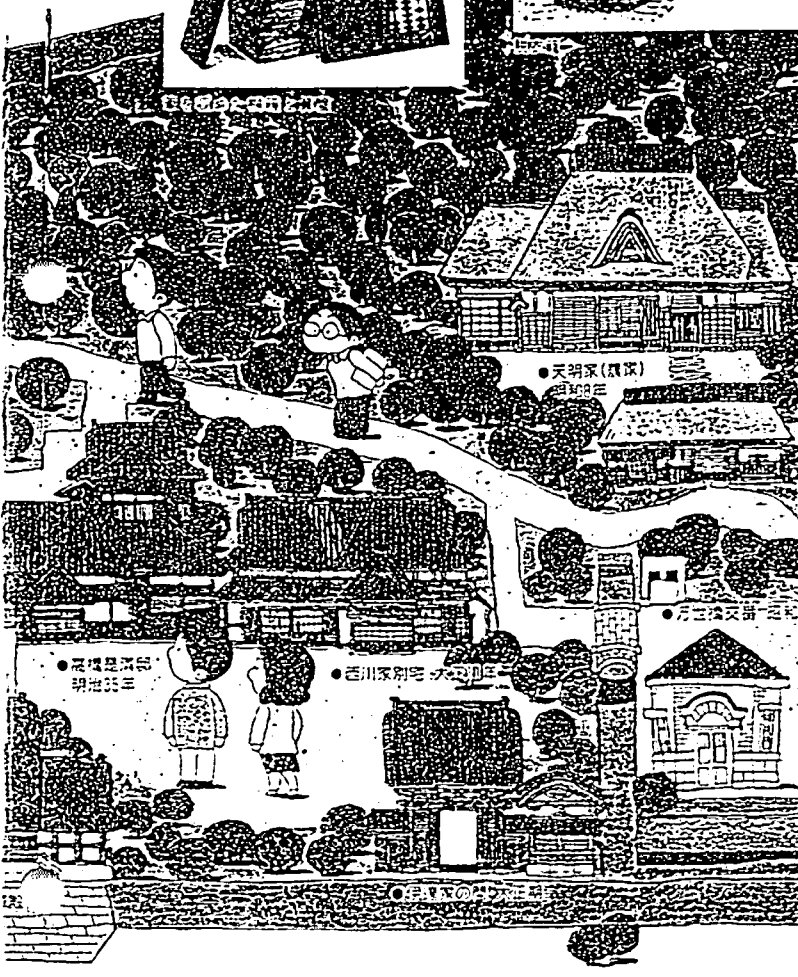
●酒屋(居酒屋)
安政3年

●子宝湯(昭和4年)



●小笠原商店(昭和初期)

●武居三省堂(文月店)
昭和2年



●天明家(寛政)

●天明3年

●万葉文新(昭和3年)

●蔵屋敷(明治33年)

●西川家別荘(昭和2年)

江戸から東京に至る貴重な建物には、関東大震災や戦災などの多くを消去しました。そして現在、世界一価値の高い東京では、文化的な価値観により経済効果が高まっています。その中で、一歩先手を交けるのが、住まう文化を伝える古い建物のことです。

例えば、フランチ・ロイヤル・ライオン設計の高層ビルは明治時代に引け取られました。国の重要文化財の大名茶屋敷が池田へ移築された例もあり、また、文化財に指定されていないものでも、取り壊されかけていた江戸東洋物産の建設関係者の発見として、江戸東洋物産の提供を奨励したのは、江戸東京の文化を免れさせる貴重な建造物で、なんとか保護しなければならぬという意図からでした。そのためには、取り壊される建造物の緊急避難の場所、つまり野外収蔵がとる土地の確保がどうしても必要だったわけです。

小倉井公園に建設されている野見博物館は、各地にある豪家や名家などを収蔵した民俗系の博物館とちがって、趣が違います。ここに収蔵される建造物は、武家文化、寺社文化、町人文化、民俗文化などの系列をわけずに多く取り上げられており、江戸東京の持つ実に多様な文化の断面を反映しているからです。

また、野見博物館の中心に収蔵される月白邸は、徳川幕府の中心に収蔵される月白邸を導くための寛安五年に建てたもので、武家文化の文化と寺社文化の両面を併せてもつ代表的な建造物といえます。



江戸東京の多彩な文化を収蔵する
委員 渡辺保志

江戸東京博物館分館 野外博物館

野外博物館

緑豊かな都立小金井公園内に誕生するユニークな野外博物館(江戸東京博物館分館)。ここでは約7ヘクタールの広さに、江戸東京の文化的・歴史的な建物、武家屋敷、町家、商家、農家などが再現されます。東京の自然に触れながら、古い貴重な建物を見学できます。

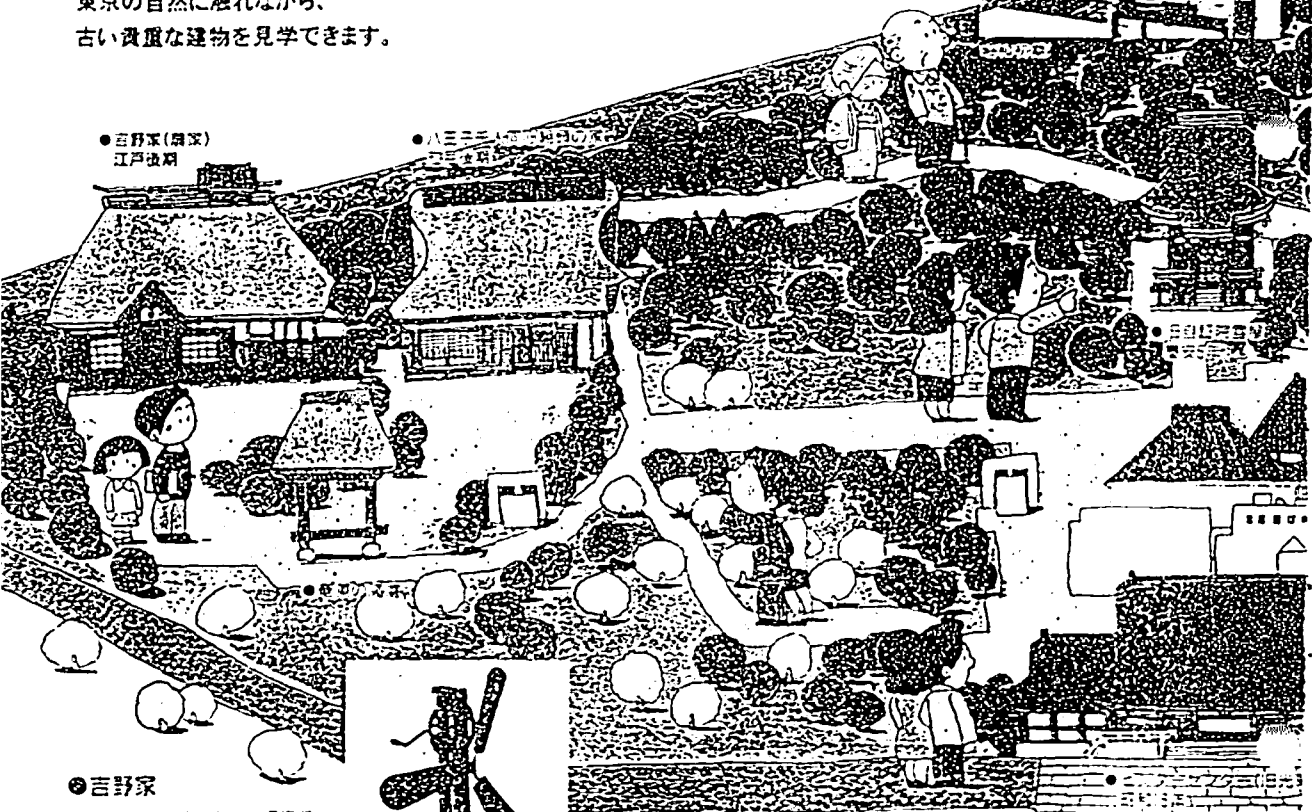
●高橋是清邸

財政通の政治家として名高い高橋是清の自宅の一部です。写真は生前の書斎の様子を写したもので、2・26事件(昭和17年)の現場にもなりました。
(旧所在地：港区赤坂)



●吉野家(商家) 江戸後期

●八三三三(町家の表)



●吉野家

江戸時代に名主り荘の日本家です。土間で季節に応じた道具を展示します。収穫の後、写真の図形はし用原図紙を壁で写していると、面白がって子供がたくさん写って来たそうです。
(旧所在地：三浦郡野崎)

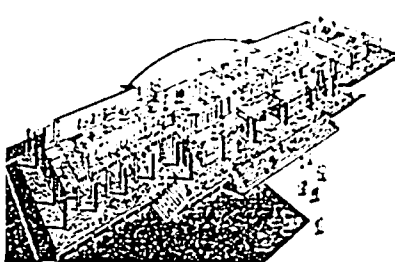


用原図紙用道具

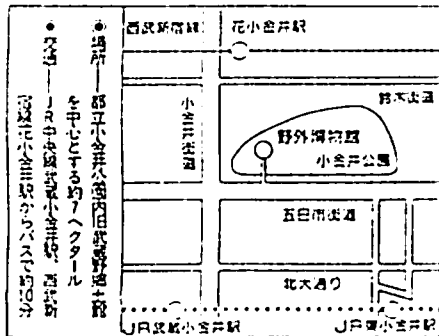
●ビジターセンター(旧光華殿)

昭和15年の「紀元2600年の式典」に使われた建物です。ここが野外博物館の入り口になります。中では東京の歴史を、建蔵物や都市計画を通してわかりやすく紹介します。また図書や映像によるさらに詳しい情報も用意しています。
(旧所在地：千代田区泉原外苑)

野外博物館が完成する平成十二年(2000年)までは、新たに約二千棟が移築され、既存のものも含めて約二千五棟収蔵される予定です。ただし、これらの建造物が全部収蔵されたら、その後の収蔵物件をどうするかは、今後の検討事項です。また、収蔵物件の収蔵場所も、今後の検討事項です。
(以下)



ビジターセンター(旧イニシバース)

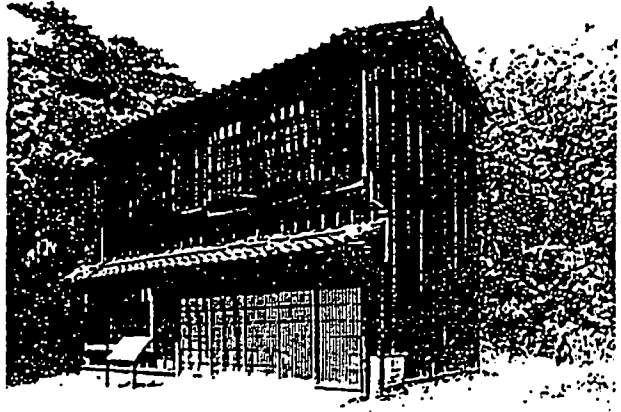


居酒屋 鍵屋

昭和を語るくつろぎ空間

鍵屋は、台東区上谷の吾間通り沿いにあった居酒屋です。一帯は、道路が拡張される昭和五十年（一九七五）頃まで、昔ながらの商店が立ち並び、庶民の町の面影を保ったところでした。

このあたりには、明治時代から大正時代にかけて、正岡子規など文化人も多く住んでいましたが、関東大震災を契機に商人や職人の住む地域へと変わっていききました。また、下谷、根岸あたりは、関東大震災、東京大空襲の被害を奇跡的に免れま



旧武蔵野郷土館時代の鍵屋

したが、区画整理などで町並みも大きく変化しています。

鍵屋は、安政三年（一八五二）に上野寛永寺出入りの酒屋として創業したと伝えられていますが、昭和初期に一杯飲み屋を始め、敗戦後は酒屋を廃業して居酒屋となりました。

建物は、当初平家でしたが、「おかくら」という方法で二階部分を増築したり、「曳家」という建物を解体せずに移動したりと幾多の変遷を経て、その表情をさまざまに変えてきました。

鍵屋の商売や建物も、下谷の町並みと同様に時代とともに移り変わっていったようです。

江戸東京たてももの園では、鍵屋の建物とともに、居酒屋をしていた昭和四十五年（一九七〇）頃の店内の様子を再現、展示します。客席約三十のこじんまりした店内には、所狭しと瓶や樽、看板が並びます。

お店の特色は堅実、贅味。「さりげなく飲むお客さんが一番鍵屋に似合います」とは、鍵屋の女将さんの話です。

私たちは、そんな鍵屋が守り続けた「こころ」を、来館者の方々にご覧いただけるよう、現在準備を進めています。ご期待ください。

野外博物館の建造物から

昭和初期の典型的な商家

小寺醤油油店

港区白金という、山の手の住宅街というイメージですが、おかみさんたちが毎日の献立を考えながら買い物をする、庶民の町としての顔もありました。小寺醤油油店もまた、この場所を庶民生活を支えてきたお店の一つでした。

野外博物館では、昭和初期の和風商家の特色を残すこの建物を移築・復元します。

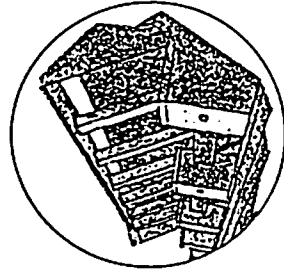
小寺醤油油店は、出し箱造りと呼ばれる形式で建てられています。張り出した瓶木と、そこに乗っている外に持ち出された樽に特徴があります。もともと、縁を広くとったり、雷の重みで軒がたわまないようにするための工夫でしたが、外観上の化粧目的としても使われるようになりました。

大きく張り出した軒先までいっばいに醤油や酒ビンが並べられたお店では、昭和三十年代末まで売りやりを行っていました。今ではほとんど見られなくなりましたが、空の一升ビンを持ってきたお客に樽と漏斗で樽の醤油を量って売ります。お互いの顔と顔が見える店先のミニニケーションは、地域生活の潤滑油としての役割も担っていたはずですよ。

ここでは、酒や醤油のビンや樽の並べられた店内の様子とともに各部屋も再現します。昭和の商家の暮らしぶりと売りやりの様子をお伝えしようと思います。



昭和20年代後半の



出し箱造り

野外博物館（江戸東京博物館分館）

◎場所—— 国立小金井公園内の旧武蔵野郷土館を中心とする約7ヘクタール

◎交通—— J1中央線武蔵小金井駅、西武新宿線花小金井駅からバスで約10分

◎開館時間—— 平成4年度（施設の最終完成は平成12年度）

※収蔵建造物一室毎には、町家、蔵家、蔵家、銭湯など約15棟（元建物は約10棟）を予定

野外博物館の
建造物から

産民の社交場・銭湯

子宝湯

都内に残る古い貴重な建物で
取り壊されることになったものを
解体し、ここ野外博物館に移築
復元します。

今回は、四つのゾーンの中の一つ
「下町ゾーン」に再現される銭湯の紹介。

落語の題材や江戸時代の滑稽本『浮世風呂』の舞
台になったように、銭湯は庶民にとって身近で、な
くしてはならないものでした。半ば蒸風呂形式の江戸
時代から様々な工夫を凝らした現代まで、銭湯は入
浴方法とともにその姿も変えてきました。横丁を曲
がると見えてくるどっしりとした構えからは、町の
。おやじといった風格が漂っていました。近年、
そんな面影が失われてきました。町中どこからでも
見えた高い煙突がだんだんと消えつつあることも事
実です。

野外博物館では、庶民生活の象徴ともいべき銭
湯を移築・復元します。足立区千住で昭和初期から
およそ六十年営業していた子宝湯という銭湯です。
男湯には浴槽と弁座の、女湯には浴槽合戦のタイル
絵がはめこまれたこの銭湯は、当時としては先進的



な装飾を施して建てられました。子宝湯の特徴は、
入り口の屋根の造作にあります。神社仏閣を思わせ
る唐破風の反曲カーブした屋根は、東京の銭湯の特
徴ですが、とりわけ、子宝湯のものは大ぶりて、ミ
の下には舟に乘る七福神の精巧な彫刻が施されてい
ます。

子宝湯は下町ゾーンの町並みの正面に復元され、
内部では銭湯に関わる昔懐かしい生活民俗資料の展
示も予定しています。

【野外博物館】

●場所——都立小金井公園内の旧武蔵野郷土館を中心と
する約7ヘクタール

●交通——J中央線武蔵小金井駅から調理学バスで約10
分

●開館時間——平成4年度（建設の最終完成は平成12年度）
●収蔵建物1開館時には、町家、商家、農家、其通など
約15棟（完成時には約35棟）を予定

野外博物館の
建造物から

ダルマ宰相と呼ばれた

高橋是清郎

高橋是清の名前を聞いたことのない人はいないで
しょう。七回の蔵相歴を持つ政治家として名高く、
二・二六事件で青年将校の凶弾に倒れたことはあま
りにも有名です。

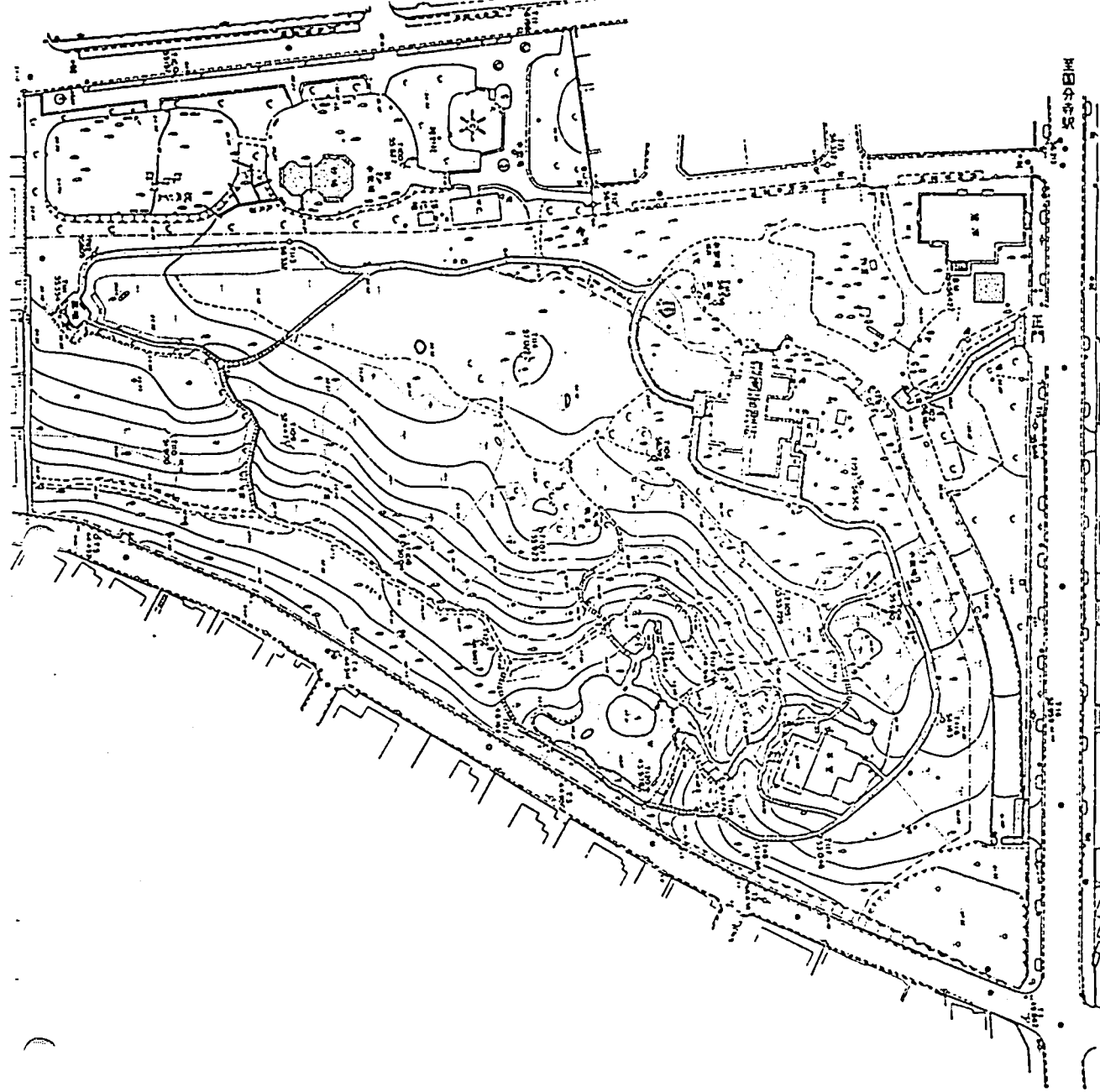
高橋是清郎は、日英同盟が結ばれた明治三十五年
（一九〇二）現在の港区高橋是清翁記念公園のある
場所に落成し、以来、是清がこの建物の二階で暗殺
された昭和十一年（一九三六）まで住居として使用
されてきました。是清の死後しばらくして、屋敷の
一部が是清の眠る多摩墓園に移築され、休憩所とし
て利用されてきました。このたびは江戸東京博物館が
都立小金井公園の中に野外博物館を設け、それを収
蔵し、保存していくことになりました。

是清は安政元年（一八五四）に生をうけ、まもなく
仙台東屋敷の家に養子に出されました。英語を学
び、十四歳でアメリカに留学した折りに、奴隷とし
て売り飛ばされた経験もあります。帰国後は転職を
重ねる放浪生活をしていましたが、財政的な手腕を
買われ政界入りを果たしました。

波乱に満ちた人生と、達磨宰相として親しまれた
是清の卓上日記のりは、2月22日 晴 5・8 69
朝食常（2月23日 雪 夜入浴 5・9 69 良中、
2月24日 晴 5・9 69 朝良中（2月25日



分は欠損、2月26日 美代子（是清の娘）黒髪り
と二月二十六日で止まったまま、二度と是清の手
めくられることはありませんでした。高橋是清郎
はこれらの遺品もあわせ是清とその時代を展示し
皆様に見ていただく計画です。



殿ヶ谷戸庭園

○面 積 約二〇〇〇〇平方米(庭園一八、〇〇〇平方米 庭内三、〇〇〇平方米)

庭園の沿革

この庭園は、大正二年から同四年にかけて、当時の満鉄副総裁江口定徳氏により武蔵野の自然を想定してつくられたものです。

昭和四年岩崎氏により買いとられたのち、本館・茶室などがひきつづいて整備され、自然風景的な和洋折衷の回遊式林泉庭園が完成し、岩崎氏の別邸として利用されていたものです。

その後、昭和三十七年六月都市計画公園として決定され、昭和四十九年八月東京都が買収し、昭和五十年度に開園に必要な整備工事を施工し、現在にいたっています。

植 物

この庭園は、武蔵野の自然を活かして築造された庭園ですが、ここに現存する植物は、生態学上からみると、武蔵野の代償植生である。あかまつ林から極相林であるしい、しらかし林へと変わる状況をあらわしています。

植込地内では、今まで人の立人が制限されていたので、高木、中木、低木、下草等が茂り、植物がそれぞれすみわけて安定した植物社会を形成しています。

このような樹林は、多くの生物の生存を可能にすると共に葎地の崩壊を防いでいます。

また、樹内に棲息する昆虫をもとめて、四季をおして多種の野鳥が集まっています。

しせきめぐり・あ・ら・かると・しせきめぐり・あ・ら・かると
しせきめぐり・あ・ら・かると・しせきめぐり・あ・ら・かると
しせきめぐり・あ・ら・かると・しせきめぐり・あ・ら・かると
で、立川段丘を浅く堀りこんでいる。

◎五日市街道

新宿と青梅とを結ぶ青梅街道の脇往還であり、高円寺と馬橋村との境（現・杉並区高円寺南三丁目）から分かれて、大宮前、中高井戸、松庵などの各村を貫通し吉祥寺、小金井新田などを経て五日市へ達していた。

◎玉川上水

神田上水と並んで、江戸二大水道の一つに数えられている。江戸の発展とともに、神田上水だけでは、水不足となったため、幕府は多摩川から水をひくことを決め、町人庄右衛門・清右衛門兄弟に開削工事を命じた。工事は承応2（1653）年4月に着手され、翌年6月に完成した。

西多摩郡羽村町（現在）に取水口が設けられ、四谷大木戸まで開渠により、大木戸から四谷見附までは地下石樋で導水、ここで二分されて、一つは麴町を経て江戸城へ、他は赤坂を経て京橋以南の市街地へ、それぞれ木管や石樋で導かれた。

◎国分寺崖線

武蔵野台地西部に最も広い面積をしめる武蔵野段丘の南西をくぐる急な崖（段丘崖線）。崖下の平地は立川ローム層による立川段丘。崖線下各所に湧き水箇所がある。

野川は国分寺崖線で武蔵野礫層から湧く水でできた川

◎お鷹の道

江戸時代、尾張徳川家のお鷹場に指定されたこの地を狩にいく武士が通ったという野川にそそぐ清流ぞいの小径。遊歩道として親しまれている。

◎真姿の池

平安時代、病に苦しんだ玉造小町が、この池の水で体を洗って、いやされたという伝説の池。真姿井財天がまつられている。

お鷹の道・真姿の池湧水群は環境庁選定の全国名水百選の一つ。

◎文化財保存館

☆勝坂式土器（縄文時代中期・国指定重要文化財）
☆国分寺出土の奈良時代の瓦（郡名を書いたり、瓦を焼いたりしたのは、どんな人だったのだろう。どんな生活をしていただろう。）

◎万葉植物園

万葉集に詠まれている860種の植物が集められ、例歌と作者を記した案内板がある。

◎仁王門と桜門

ともに市指定有形文化財。
桜門は東久留米市内の米津寺（べいしんじ、米津出羽守の菩提寺）のもの。

仏教の伝来

紀元前五世紀にガンジス河中流域地方で仏教が興起してから、部派仏教の時代をへて、紀元一世紀前後頃に大乘仏教が成立した。その頃すなわち一世紀、後漢の明帝のときに仏教は中央アジアの地方から中国に伝えられた。東晋(三一七―四二〇)の時代になって、中国とインドとの直接的な交流がはじまる。

秦の苻堅が順道に託して仏像、経巻を朝鮮半島の北方の高句麗におくった。後、新羅の原王(法興王)十五年(五二八)にこの国へ、高句麗の墨胡子が仏教を伝えた。百済への仏教流伝は枕流王の元年(三八四)に、東晋の摩羅難陀(マラーナダ Malānanda)が海路、仏教を伝えた。

わが国に仏教が公伝したのは古墳時代末期の六世紀中葉すなわち『日本書紀』に記されるように欽明帝十三年(五五二)に仏教が公伝したとされるが、実際は同七年(戊年五三八)頃に百済の聖明王が仏像、経巻、仏具などを献上したのにはじまる。

敏達帝十三年(五八四)、蘇我氏に協力して仏教の興隆に尽くした司馬達等の一族は、仏教に帰依した。彼の娘、島女は出家して善信尼となり、程なくして百済に留学した。また彼の子、多須奈も出家した。崇峻帝元年(五八八)に法興寺(飛鳥寺、後の元興寺)の建立に着手した。ついで推古帝元年(五九三)に聖徳太子(厩戸皇子、上宮太子とも)が摂政となり、この年、四天王寺を建立した。

天平十三年(七四一)、国ごとに国分寺・国分尼寺を置く詔が発せられ、越えて天平勝宝四年(七五二)に聖武帝は菩提仙那を導師として、東大寺大仏の開眼供養をおこなった。

法華寺ゆかりの女性

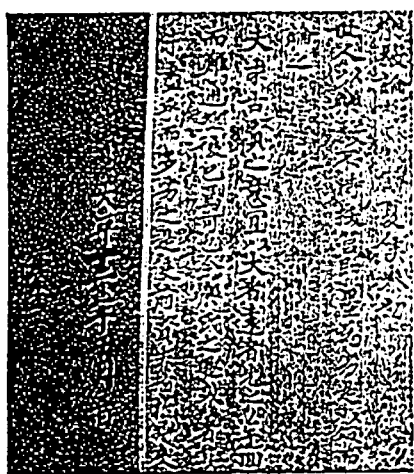
光明皇后

東大寺及び天下の圓分寺を創建するは、もと太后の勅むる所なり（続日本紀）

光明皇后が天平宝字四年（七六〇）六月七日に六十歳で崩御、その後の事跡を披露した中の一節である。また、東大寺の大仏で知られる盧舎那仏の造立の時も、河内の智識寺で大仏にまみえた聖武天皇が自らも造像したいとした折、それを勧めたもいる。聖武天皇のこれらの事跡に対する皇后の、それらの善行を内助の功と言えは言えなくもないが、光明皇后の場合はその枠を越えて、むしろ主導したようにも思える。

圓分寺、圓分尼寺創建の詔が発せられたのは天平十三年（七四二）三月（一月説もあり）、しかしその準備はそれより先に行われていた。というのは、その正月には光明皇后の生家、藤原不比等家から返上された食封五千戸の内三千戸が諸國の圓分寺に丈六仏造立の費用として寄進されている。創建の詔をまたずして圓分寺、圓分尼寺の創建に着手されていること、そして、その費用の一部が光明皇后の父家からの返上財でまかなわれていることを考え合せると、皇后の強い意志と単なる内助の功を越えたものを考えざるを得ない。

ところで、この圓分寺、圓分尼寺の制の原型はなにかと言えば、唐の武則天の大雲寺の制と隋の文帝の州ごとの僧尼二寺併設とされている。光明皇后が私淑した武則天の名前がここに登場する。しかも、それらの事業の中心となったのは僧尼時。玄奘は聖武天皇の生母藤原宮子夫人（不比等の娘）の人事を廃する程の幽憂病を治し、聖武天皇を生んだ後、母子対面を初めて可能にした功績があると、不比等の邸宅内に取り入れられた海竜王寺に止住したと考えられ、藤原不比等に密着した人物であった。ここから光明皇后の圓分寺創建の主动性がうかがえてくる。

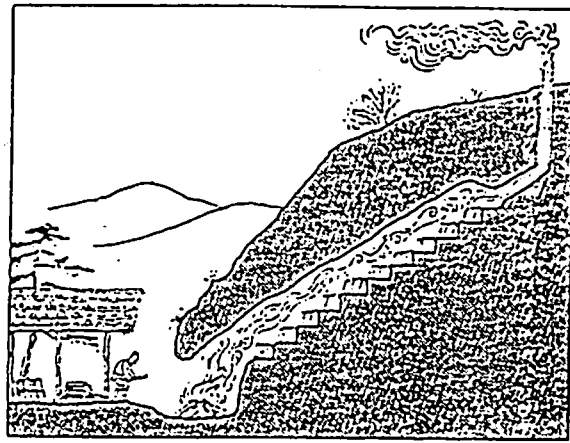


光明皇后のエネルギー発露の「藤三娘（藤原家の三女）」のかわいい日着

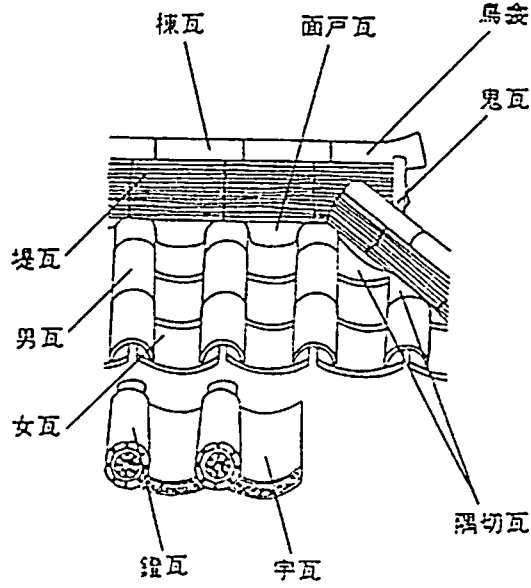
悲田院、施薬院を建て広く困窮者を救ったり、万葉集にのこる（巻八）聖武天皇への惜み。また、正倉院宝物の献納帖にある心情など心の優しさと同時に、また反対に、おなじ年の、病弱であったと思える天皇を励まし、積極的な提言があつたと考えられる。

この気丈な皇后にもピンチはあつた。天平九年（七三七）、藤原一族を支える不比等の四人の息子、武智麿、房前、宇命、麻呂が相ついで流行病で没したのである。政敵暗躍する中、倭美藤原仲麻呂の成長を待つ間の苦勞と手腕は創造に輝かない。正倉院宝物に見る皇后の手習いの「栗敷論」にのこる「藤三娘」の異名の逸脱する程の強さにその武則天に私淑し、難局を乗り越え得たエネルギーを見ることが出来る。天平時代を支えた、父不比等とならぶ政治家であつたとは言えないか。

西岡常一・宮上茂隆著、穂積和夫
イラスト「法隆寺」(草思社刊)
より



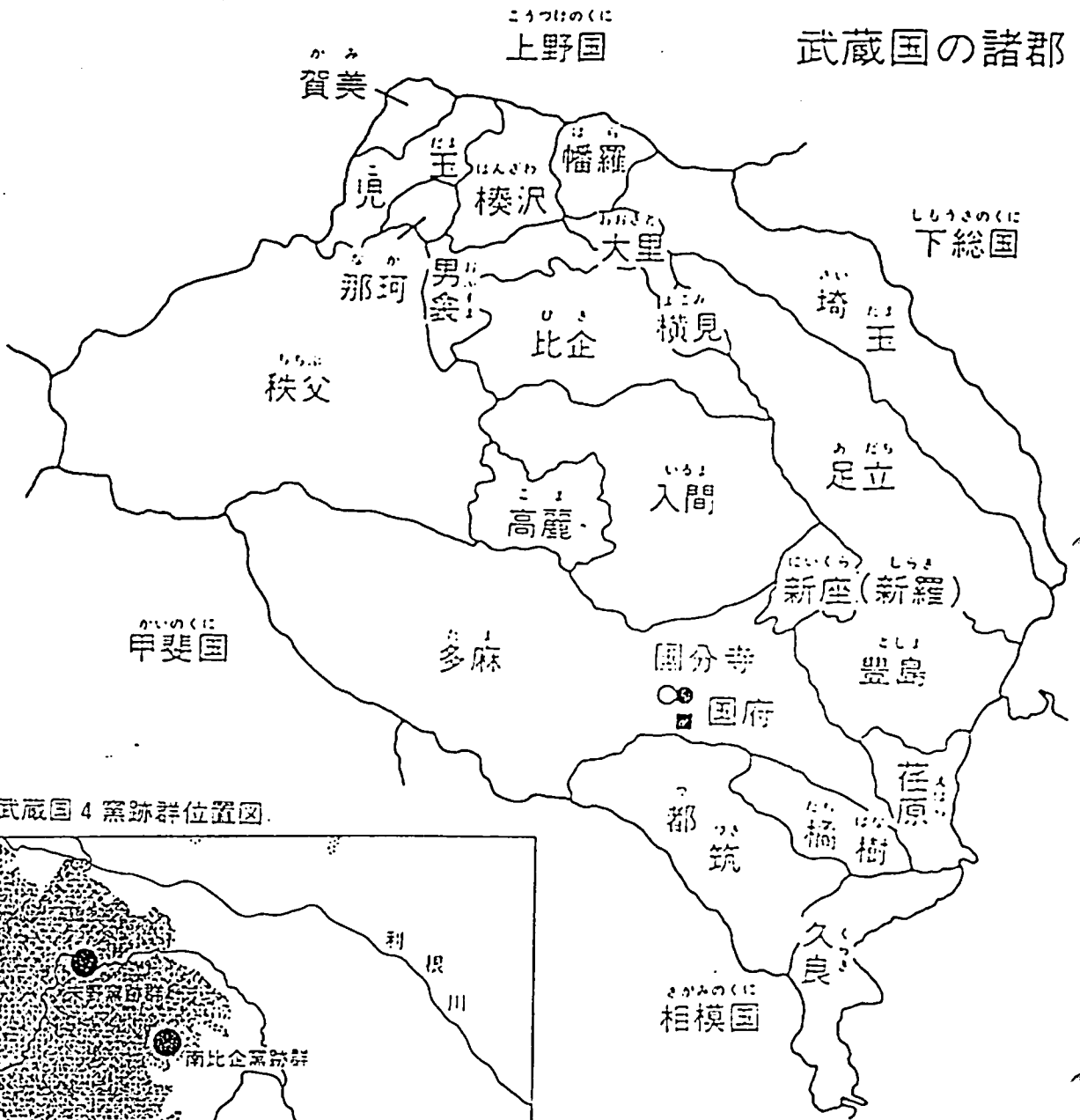
窯による瓦の焼成作業



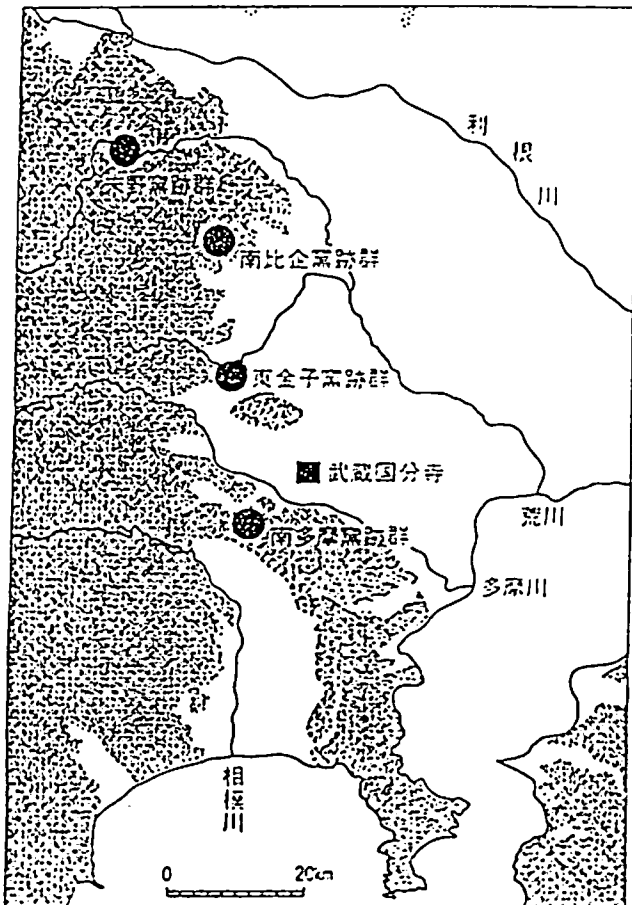
瓦の名称と使用箇所

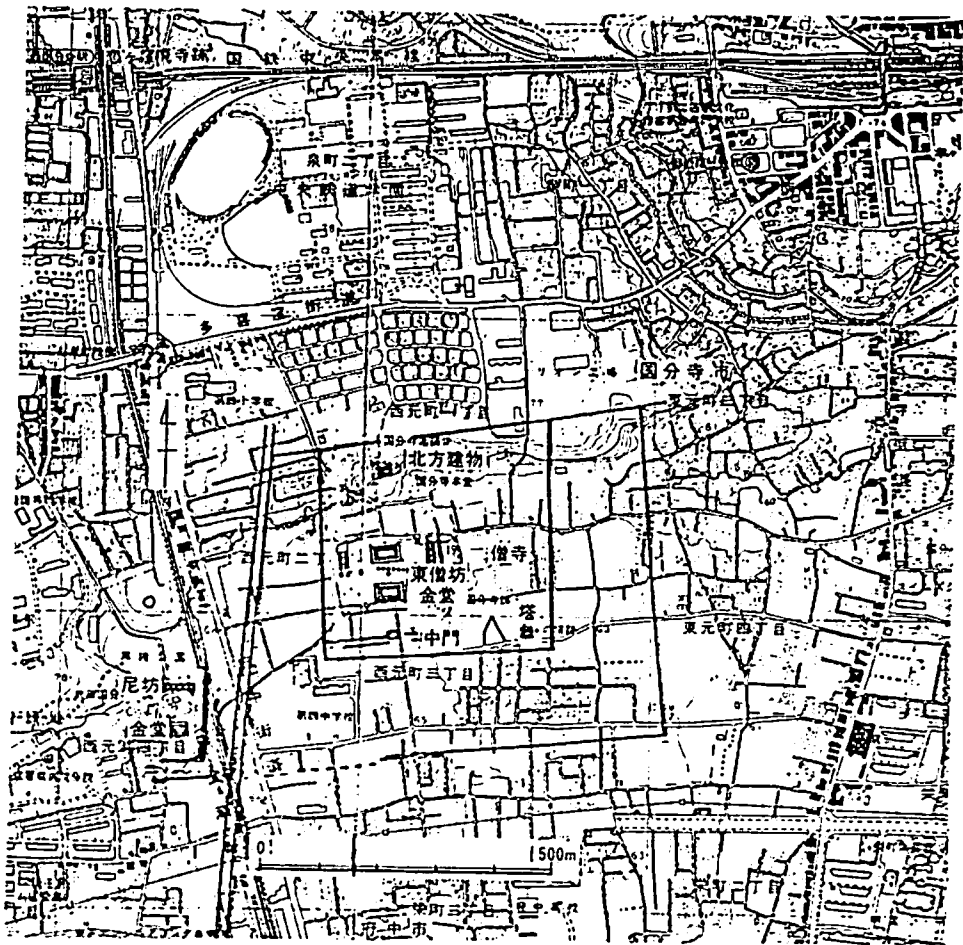
<p>土瓦 (両じ乾燥)</p>							<p>2枚に割り、 切り口などを 仕上げける</p>							<p>石をはずし、 乾燥</p>							<p>板で叩き、 形を整え、 木炭から焼く</p>							<p>粘土の板か 紐をよきつける</p>							<p>木炭に薪を かぶせる</p>							<p>木型をつくる</p>							<p>男瓦のつくり方</p>	
<p>土瓦 (両じ乾燥)</p>							<p>3-4枚に割り、 切り口などを仕上 げる</p>							<p>石をはずし 乾燥</p>							<p>板で叩き、 形を整え、 紐を置く</p>							<p>粘土の板か 紐をよきつける</p>							<p>紐に薪を かぶせる</p>							<p>木型をつくる</p>								<p>(編みこ作り)</p>
<p>土瓦 (両じ乾燥)</p>							<p>台からとりあげ、 裏面をはずして乾燥</p>							<p>一枚余の大きき に形を整える</p>							<p>粘土の板か紐を おき、板で叩く</p>							<p>台に薪を かぶせる</p>							<p>編みこ板で編み した台をつくる</p>							<p>(二枚作り)</p>								

武蔵国の諸郡

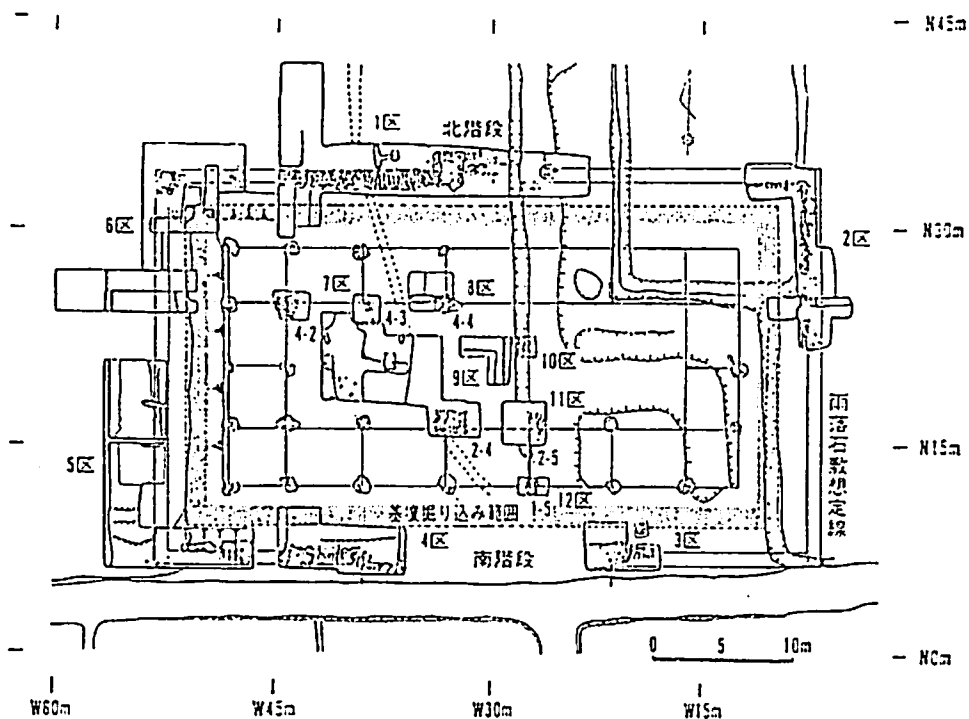


武蔵国 4 窯跡群位置図



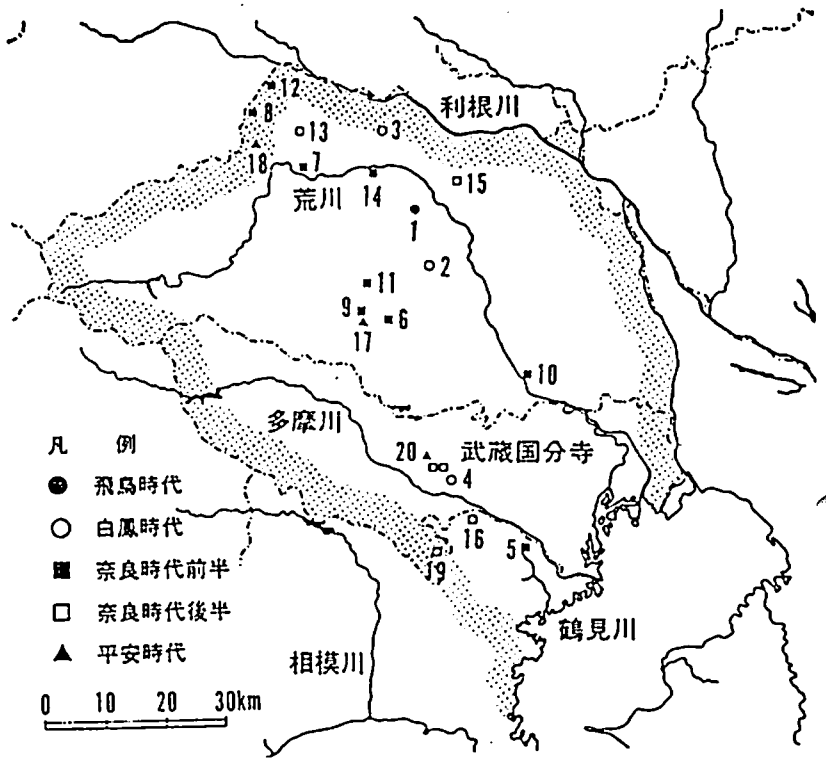


武蔵国分寺伽藍配置図



金堂跡平面図

武蔵国古代寺院分布図



北武蔵

- 1 寺谷廃寺跡 (埼玉県比企郡滑川村) …… 飛鳥時代
旧比企郡
- 2 勝呂廃寺跡 (埼玉県坂戸市) …… 白鳳～平安時代
旧入間郡
- 3 西別府廃寺跡 (埼玉県熊谷市) …… 白鳳～奈良時代
後半 旧播磨郡

南武蔵

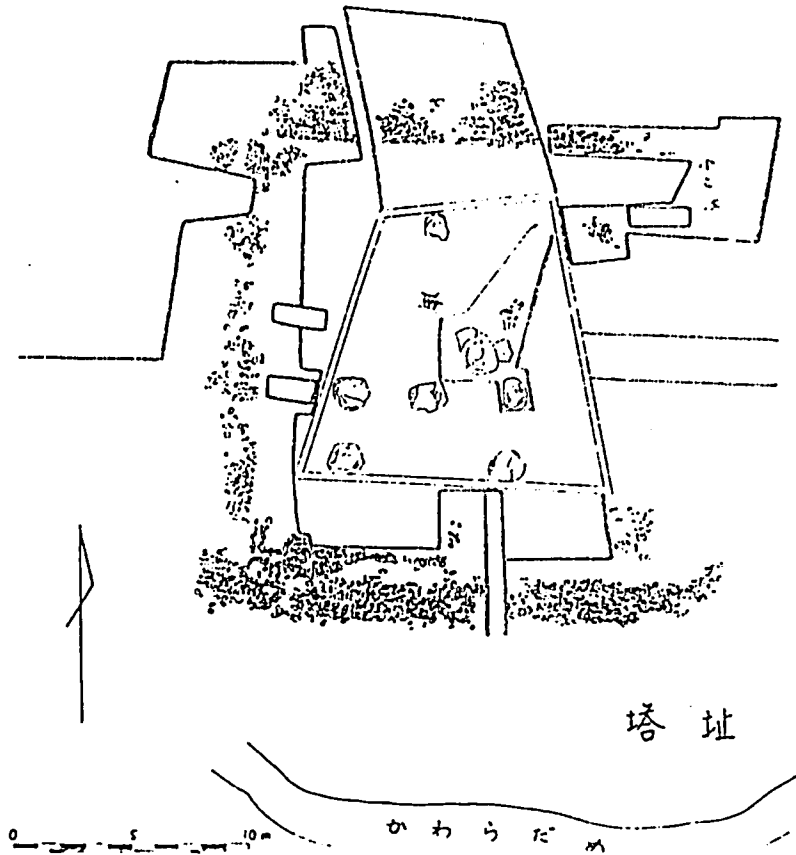
- 4 京所廃寺跡 (東京都府中市) …… 白鳳～平安時代 旧多摩郡
- 5 影向寺跡 (神奈川県川崎市) …… 奈良時代前半～後半 旧橋樹郡
- 6 女影廃寺跡 (埼玉県上野郡日高町) …… 奈良時代前
半～平安時代 旧高麗郡
- 7 馬騎の内廃寺跡 (埼玉県大里郡寄居町) …… 奈良時
代前半～平安時代 旧榛沢郡
- 8 城戸野廃寺跡 (埼玉県児玉郡神川村) …… 奈良時代
前半 旧賀美郡
- 9 大寺廃寺跡 (埼玉県入間郡日高町) …… 奈良時代前半～中世 旧高麗
郡
- 10 大久保領家廃寺跡 (埼玉県浦和市) …… 奈良時代前半 旧足立郡
- 11 小用廃寺跡 (埼玉県比企郡鳩山町) …… 奈良時代前半 旧比企郡
- 12 五明廃寺跡 (埼玉県児玉郡上里町) …… 奈良時代前半 旧賀美郡
- 13 大仏廃寺跡 (埼玉県児玉郡美里村) …… 奈良時代後半 旧那珂郡
- 14 縮光寺廃寺跡 (埼玉県大里郡川本町) …… 奈良時代前半～平安時代
旧男衾郡
- 15 旧盛徳寺跡 (埼玉県行田市) …… 奈良時代後半～中世 旧埼玉郡
- 16 菅寺尾台廃寺跡 (神奈川県川崎市) …… 奈良時代後半～平安時代 旧橋樹郡
- 17 高岡廃寺跡 (埼玉県入間郡日高町) …… 平安時代 旧高麗郡
- 18 寺山廃寺跡 (埼玉県児玉郡児玉町) …… 平安時代 旧児玉郡
- 19 岡上廃寺跡 (神奈川県川崎市) …… 奈良時代後半 旧郡筑郡
- 20 恋ヶ窪廃寺跡 (東京都国分寺市) …… 平安時代～中世 旧多摩郡

国分寺・国分尼寺所在地一覽

東		海		道		畿内		国名	国分寺所在地	国分尼寺所在地											
常陸	下総	上総	安房	武蔵	相模	伊豆	駿河	伊勢	志摩	尾張	三河	遠江	伊賀	伊豫	摂津	河内	大和	山城	京都府相楽郡加茂町大字例幣字中切	京都府相楽郡加茂町大字法花寺野	
	○茨城県石岡市石岡国分寺(寺字平川)	○千葉県市川市国分三丁目(旧国分寺)	○千葉県原市惣社字室ノ後・上クホミ	○千葉県館山市国分字天神前	○千葉県原市惣社字室ノ後・上クホミ	○千葉県原市惣社字室ノ後・上クホミ	○千葉県原市惣社字室ノ後・上クホミ	○千葉県原市惣社字室ノ後・上クホミ	○千葉県原市惣社字室ノ後・上クホミ	○千葉県原市惣社字室ノ後・上クホミ	○千葉県原市惣社字室ノ後・上クホミ	○千葉県原市惣社字室ノ後・上クホミ	○千葉県原市惣社字室ノ後・上クホミ	○千葉県原市惣社字室ノ後・上クホミ	○千葉県原市惣社字室ノ後・上クホミ	○千葉県原市惣社字室ノ後・上クホミ	○千葉県原市惣社字室ノ後・上クホミ	○千葉県原市惣社字室ノ後・上クホミ	○千葉県原市惣社字室ノ後・上クホミ	○千葉県原市惣社字室ノ後・上クホミ	○千葉県原市惣社字室ノ後・上クホミ
山陰	出雲	伯耆	因幡	丹波	丹波	丹波	丹波	丹波	丹波	丹波	丹波	丹波	丹波	丹波	丹波	丹波	丹波	丹波	丹波	丹波	
○鳥根県松江府竹矢町中竹矢字古寺	○鳥根県松江府竹矢町中竹矢字古寺	○鳥根県松江府竹矢町中竹矢字古寺	○鳥根県松江府竹矢町中竹矢字古寺	○鳥根県松江府竹矢町中竹矢字古寺	○鳥根県松江府竹矢町中竹矢字古寺	○鳥根県松江府竹矢町中竹矢字古寺	○鳥根県松江府竹矢町中竹矢字古寺	○鳥根県松江府竹矢町中竹矢字古寺	○鳥根県松江府竹矢町中竹矢字古寺	○鳥根県松江府竹矢町中竹矢字古寺	○鳥根県松江府竹矢町中竹矢字古寺	○鳥根県松江府竹矢町中竹矢字古寺	○鳥根県松江府竹矢町中竹矢字古寺	○鳥根県松江府竹矢町中竹矢字古寺	○鳥根県松江府竹矢町中竹矢字古寺	○鳥根県松江府竹矢町中竹矢字古寺	○鳥根県松江府竹矢町中竹矢字古寺	○鳥根県松江府竹矢町中竹矢字古寺	○鳥根県松江府竹矢町中竹矢字古寺	○鳥根県松江府竹矢町中竹矢字古寺	
山陰	出雲	伯耆	因幡	丹波	丹波	丹波	丹波	丹波	丹波	丹波	丹波	丹波	丹波	丹波	丹波	丹波	丹波	丹波	丹波	丹波	
○鳥根県松江府竹矢町中竹矢字古寺	○鳥根県松江府竹矢町中竹矢字古寺	○鳥根県松江府竹矢町中竹矢字古寺	○鳥根県松江府竹矢町中竹矢字古寺	○鳥根県松江府竹矢町中竹矢字古寺	○鳥根県松江府竹矢町中竹矢字古寺	○鳥根県松江府竹矢町中竹矢字古寺	○鳥根県松江府竹矢町中竹矢字古寺	○鳥根県松江府竹矢町中竹矢字古寺	○鳥根県松江府竹矢町中竹矢字古寺	○鳥根県松江府竹矢町中竹矢字古寺	○鳥根県松江府竹矢町中竹矢字古寺	○鳥根県松江府竹矢町中竹矢字古寺	○鳥根県松江府竹矢町中竹矢字古寺	○鳥根県松江府竹矢町中竹矢字古寺	○鳥根県松江府竹矢町中竹矢字古寺	○鳥根県松江府竹矢町中竹矢字古寺	○鳥根県松江府竹矢町中竹矢字古寺	○鳥根県松江府竹矢町中竹矢字古寺	○鳥根県松江府竹矢町中竹矢字古寺	○鳥根県松江府竹矢町中竹矢字古寺	

南海道	山陽道	国名	国分寺所在地	国分尼寺所在地
紀伊 淡路 阿波 讃岐 伊予 土佐	備前 備中 備後 安芸 周防 長門	播磨 美作 備前 備中 備後 安芸 周防 長門	○兵庫縣姫路市御国野町国分寺 ○岡山県津山市国分寺 ○岡山県赤松郡山陽町大字馬屋字国分寺 ○岡山県総社市大字上林国分寺 ○岡山県深安郡神辺町下御領 ○広島県東広島市西条町大字吉行字如藍 ○山口県防府市国分寺町 山口県下関市長府字田中	兵庫縣姫路市御国野町国分寺字毘舍門室 岡山県津山市国分寺字古池人神 岡山県赤松郡山陽町大字馬屋字仁王 ○岡山県総社市大字上林字法蓮室 ○岡山県深安郡神辺町湯野 広島県東広島市西条町大字吉行字尼寺 山口県防府市国分寺町(推定) 山口県下関市長府安養寺町
和歌山縣那賀郡打田町大字東国分 ○兵庫縣三原郡三原町八木英原国分 ○德島縣德島市国府町矢野字大門 ○香川縣綾歌郡国分寺町大字国分 ○愛媛縣今治市国分字殿田 ○高知縣南国市大字国分字大門	和歌山縣那賀郡打田町大字西国分 兵庫縣三原郡三原町八木英原新庄 ○德島縣名西郡石井町大字尼寺 ○香川縣綾歌郡国分寺町新居字橋岡 愛媛縣今治市桜井 未詳	和歌山縣那賀郡打田町大字西国分 兵庫縣三原郡三原町八木英原新庄 ○德島縣名西郡石井町大字尼寺 ○香川縣綾歌郡国分寺町新居字橋岡 愛媛縣今治市桜井 未詳		
西海道	肥前 肥後 日向 大隅 薩摩 老岐 对馬 多岐 (島分寺)	筑前 筑後	○福岡縣太宰府市大字国分 福岡縣久留米市国分町(日吉神社境内) ○福岡縣京都郡豐津町大字国分 ○大分縣大分市大字国分(今屋敷) 佐賀縣佐賀郡大和町大字尼寺 熊本縣熊本市出水町字今 宮崎縣西都市三宅字国分 ○鹿兒島縣川内市国分寺町、御陵下町 ○鹿兒島縣内市国分寺 長崎縣老岐郡神辺町大字国分本村 中野 長崎縣下県郡原町国分(今屋敷) 鹿兒島縣西之表市大字国分上	福岡縣太宰府市大字国分字尼寺 福岡縣久留米市国分町西村(推定) 福岡縣京都郡豐津町大字德政 大分縣大分市大字国分(推定) 佐賀縣佐賀郡大和町大字尼寺 熊本縣熊本市出水町字健田 宮崎縣西都市右松字虹ヶ坂 鹿兒島縣内市府中文字石崗(推定) 未詳 未詳 未詳 未詳

〔参考文献〕「東大寺と国分寺」石田茂作(至文堂)。「日本の美術・国分寺」三輪嘉六郎(至文堂)。「国分寺の研究」上・下 角田文衛編



七重塔

武蔵の塔は、金講堂から東南東に200 mもはなれて建てられていた。全国でも珍しい例である。寺地を広くとったので、思い切ってこの高層建造物を中心建物から離して視覚上の効果をねらったのであろう。天平の国分寺の詔にも、造塔の寺は兼ねて国華である、とある。70 mほどの高さがあったと思われるので、たしかに驚歎に値するものであったろう。

天平12年、諸国に七重塔一基をおかせた。これが国分僧寺の塔である。諸国がいっせいに建てたとは思われないが、やがてあちこちの国分寺にこの高層建造物が花と咲いた。いま塔址の残る国分寺は多い。塔心礎に巨石をつかうので他の礎石が失われても動かすのに困難な理由もあろう。武蔵では、明治の初塔址付近を開いて耕地にしたところ不祥怪異のことが起り村人がおそれたという。塔址に立つ石塔はこのため浄財を集めて供養したものである。

この塔は、承和2年(835)神火のために焼け、のち承和12年再興を願い出て許された。発掘によれば、心礎は創建当時のままであるが、他の石はいずれも一度持ち上げて下に焼瓦をつめこみ根石と併用して据えなおしている。心礎は2.12×1.36 mの巨石でその中心に径73、深さ45 cmの円形の穴をあけてある。

再建のとき、基壇を全面的に修理したのであろう。基壇周囲に石を積み上げ、その外を小石と瓦片をつき込んだ粘土で2 mほどの幅でかためている。

吉志について

○吉志が日本に移住してきたのは6世紀のことで、その出身地も新羅に限らず、百済をふくめた朝鮮半島南部一帯と考えられる。

○吉志集団の近畿地方における本拠地は、大阪市内の難波付近である。そこには、吉志や難波の吉志など、この地域の有力な豪族があり、四天王寺はかれらの財力によって作られた、と田村円澄氏は考えている。かれらは、難波屯倉の管理者として活躍し、そのなかで莫大な財力をたくわえて、あの四天王寺をつくりあげた。

○吉志は大阪市ばかりでなく、その南の和歌山市一帯にも居住していた。和歌山市内には、海部屯倉と名草屯倉とよばれる屯倉があり、吉志はその管理者として力をもっていたと思われる。和歌山市のすぐ東に貴志川町という町が今でもある。(屯倉Ⅱみやけ)

○このように吉志は屯倉経営に活躍したが、それはなぜだろうか。屯倉は大和王権が全国各地にその力をひろげるため、経済と軍事のセンターにしたものだ。ここでは、朝鮮半島の人びとから学んだ最新式の行政組織や、すぐれた軍事装備が備えられていた。そのため、そのセンターの管理責任者には、どうしても、朝鮮半島の事情に詳しい人びとが必要であった。

○吉志はその必要に十分こたえるだけの実力をもっていた。かれらはおそらく、屯倉が全国におかれた6世紀のころ、朝鮮半島から渡来した人びとで、朝鮮半島の最近の情報にも、南北朝に分裂していた中国大陸で、

日本の敵にあたる北朝が、しだいに味方にあたる南朝を圧倒しつつあることも、たぶんよく知っていたにちがいない。

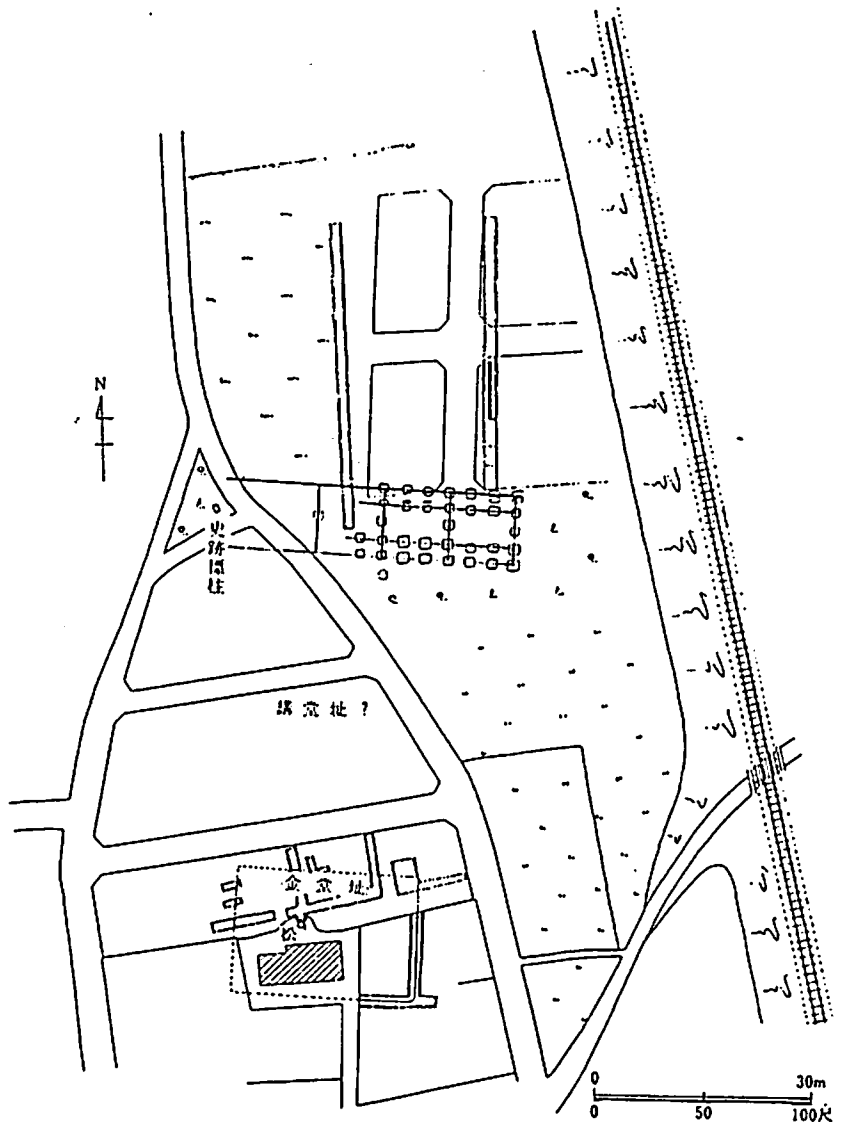
○というわけで、大和王権が全国に力をのばし、変動する東アジアの情勢にうまく対処するためには、吉志という渡来集団が必要だった。5世紀に渡来した秦(はた)氏や漢(あや)氏の集団だけでは、吉志のような時代の変動にこたえられるだけの新知識を提供するところが、たぶんむずかしかったのだろう。

○その一族は大阪市に移住したのち、横渟屯倉(よこぬのみやけ)の管理者として、まず横見地方に移り、しだいにその勢力を西北方に伸ばし、平安初期には男衾(おぶすま)郡大領の地位を占めた。

○「胴張りのある横穴式石室」というものがある。吉志一族が、朝鮮半島から移住してきた当初、定住した福岡県内で、このタイプの石室に接し、彼らの武蔵移住とともに県内へ持ち込んだのではないかといわれている。

○川本町にある鹿島古墳群は、約百基の円墳がかって存在し、今も五十基以上が保存されているが、すべてが「胴張りのある横穴式石室」であり、壬生吉志一族の墳墓ではないかとの説がある。

○男衾郡前大領壬生吉志福真正(おぶすまぐんさきのたよりょう・みぶのきしふくしょう)は、承和8(841)年、二人の息子の将来納めるべき調庸の一括前納を願い出て許され、承和12(845)年、武蔵国分寺の焼失した七層塔を独力で造立することを許された。



尼寺跡

表年連関

飛鳥	奈良	平安	鎌倉
聖徳太子推政となる。 法隆寺この頃に建立。 大化改新。東国に国司を派遣。 この頃武蔵国の国府が現在の府中市におかれる。 はじめて銀・銅銭(和銅開珎)をつくる。 平城京(奈良)に遷都。 武蔵国に高麗部をおく。 天然痘が再流行し、藤原四兄弟没す。 藤原広嗣の乱。崇仁京に遷都。 国分寺建立の詔。 平城京に遷都。 東大寺大仏開眼。 聖武天皇一周忌齋会。武蔵国分寺の造営はこの頃までにほぼ完了。 武蔵国に新羅部(新羅部)をおく。 武蔵国。東山道より東海道来に転属される。 平安京に遷都。 武蔵国分寺七重塔雷火のため焼失。 前男表郡大領(郡の長官)の壬生吉志福生が塔の再建を願い出て許可される。この頃武蔵国分寺の整備・拡充が進められる。 木造聖師如来座像(国分寺聖師堂)	源頼朝。鎌倉に幕府を開く。 鎌倉幕府滅亡。府中分倍河原の合戦で武蔵国分寺焼失(医王山縁起)		

しせきめぐり・あ・ら・かると・しせきめぐり・あ・ら・かると・しせき

◎伝・祥応

鎌倉末期(14世紀ごろか)から戦国時代にかけて、一堂形式の寺院が営まれていた。

本多4丁目の黒金山祥応寺はこの地より移転したものとされている。

◎いま、古代寺院がテーマの展覧会が：

浦和市郷土博物館(北浦和駅よりバス「浦和市立病院」行き終点下車)にて。4月11日(日)まで、「久保領家の古代寺院」展開催中。(月曜休館)

◎文化財資料展示室

☆銅造観音菩薩立像(現在の地表下約60センチから出土。7世紀後半に東国でつくられた仏像で、関東

地方最古のものか。都指定有形文化財)

☆緑袖花文皿(中学校内で出土。平安時代後期。都指定有形文化財)

◎国分寺が建てられたころ、わたしたちの越谷にも人は

住んでいた。

見田方遺跡(大成町5丁目ほか・古墳時代後期)

野島遺跡(奈良・平安時代)

大道遺跡(奈良・平安時代)

大竹遺跡(古墳・奈良・平安)

東越谷3丁目遺跡(奈良・平安時代)

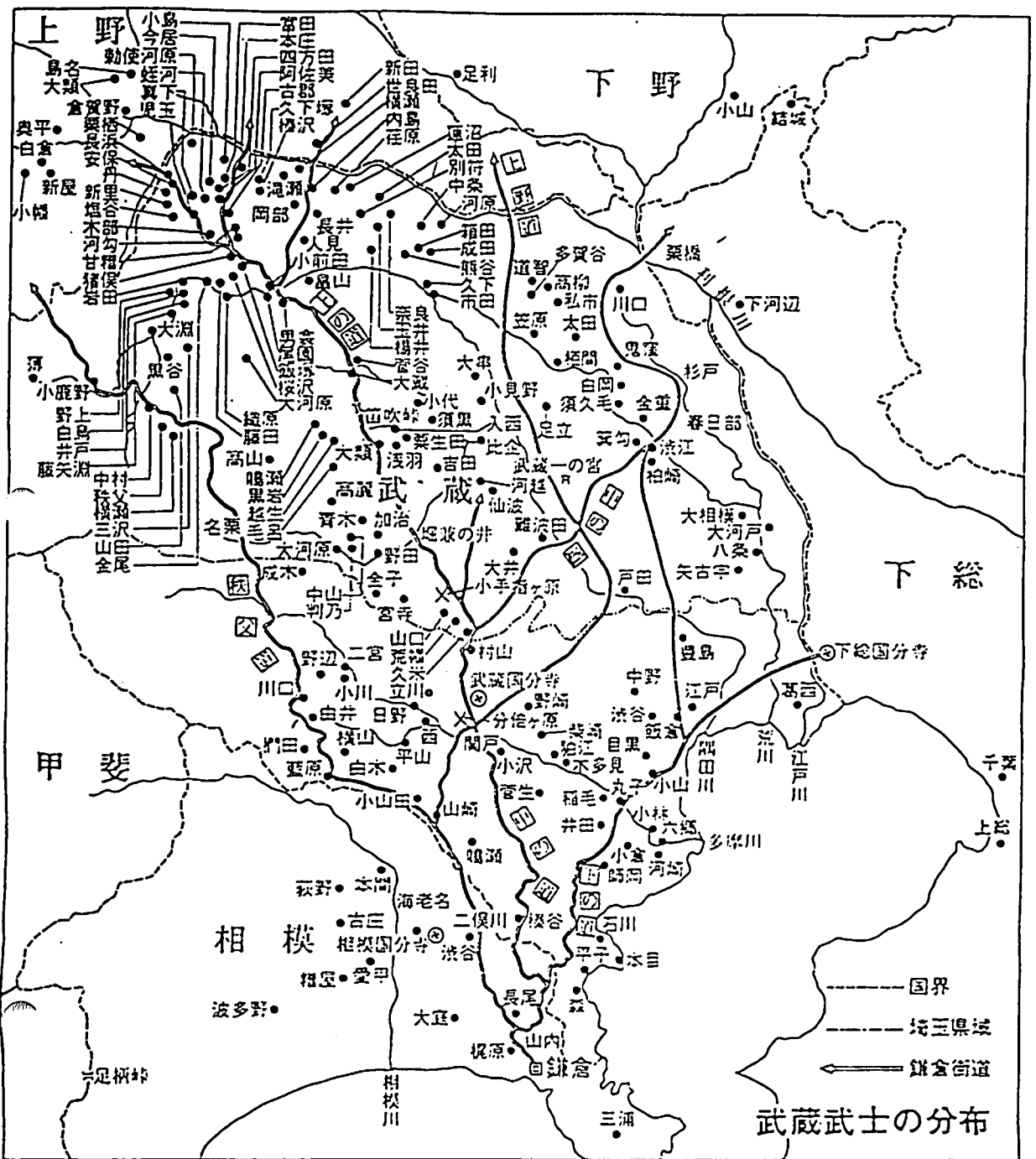
東越谷7丁目遺跡(古墳時代・平安時代)

大成町1丁目遺跡(奈良・平安時代)

東町遺跡(古墳時代後期)

小曾川遺跡(古墳時代後期)

増林遺跡(平安時代)



武蔵武士の分布 武蔵国の地形は、急峻な山々をひかえた西部山地、広大な原野がひろがる台地・丘陵地帯、沖積平野が展開する東部低地に大別される。なかでもとくに台地・丘陵地帯は、12世紀ごろから開発がさかんにすすめられ、武蔵武士の成立・発展の基盤となった。

参考図書

- 埼玉県史・通史編1 62・3 埼玉県
- 古代東国の風景 原島礼二著 5・3 吉川弘文館
- 新修国分寺の研究・2 畿内と東海道 角田文衛編 3・11 吉川弘文館
- 国分寺市史 61・3 国分寺市
- 東京百科事典 57・11 国土地理協会
- 武蔵国分寺図譜 41・12 国分寺市教育委員会
- 歴史と農のあるまち国分寺 国分寺市立もとまち公民館
- 図説埼玉県の歴史 小野文雄責任編集 92・7 河出書房新社
- 武蔵国分寺のはなし 1・3 武蔵国分寺市教育委員会
- 仏教伝来・日本編・関連年譜 宮坂宥勝著 92・11 プレジデント社
- やまとみち カギヒロコミュニケーションズ編 5・2 東海旅客鉄道
- 日本史総覧1 考古・古代 58・11 新人物往来社
- 殿ヶ谷戸庭園 2・3 (財)東京都公園協会
- 江戸東京博物館・平成4年度開館準備ニュース (財)江戸東京歴史財団